

1 屋敷構え^{がま}

古民家を訪れたら、まずは建物の配置を確認してみましょう。主屋^{おもや}だけなのか、クラや馬屋もあるのか、建物の周り囲む^{やしきりん}屋敷林もあるのか。広めの前庭があったら、そこで麦打ちなどの農作業をしたのかもしれませんが。

2 屋根のかたち

厚みのある茅葺^{かやぶ}きが古民家らしいですね。屋根の稜線がピシッと直線か、ふんわりと丸みを持っているか、軒先近くが少し反りあがっているかで、古民家の印象はガラッと変わります。

3 棟の仕上がり^{むね}

棟は、屋根を守る重要な部分です。竹簀子^{たけすのこ}で巻いた棟もあれば、板で箱型に仕上げたものも。煙出しの小屋根は養蚕をやっていた証です。棟先に模様を刈り込むこともありますので、正面からだけでなく、脇からも見上げてみてください。

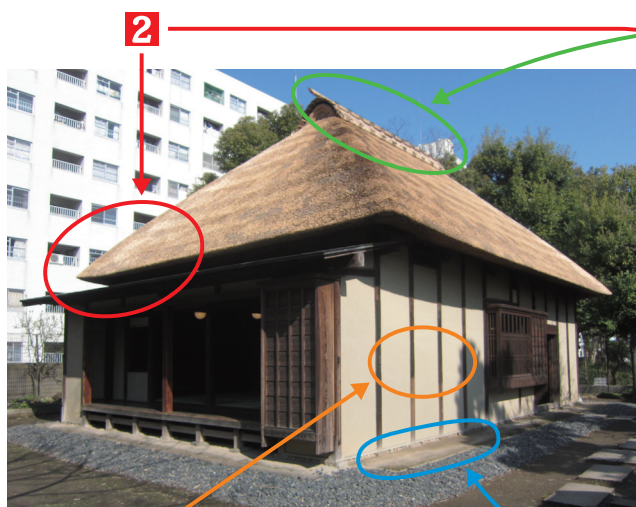
4 壁の仕上げ

土壁の上から板張りをしたり、丸竹を叩いてのばしたヒシギ竹を貼ることもあります。

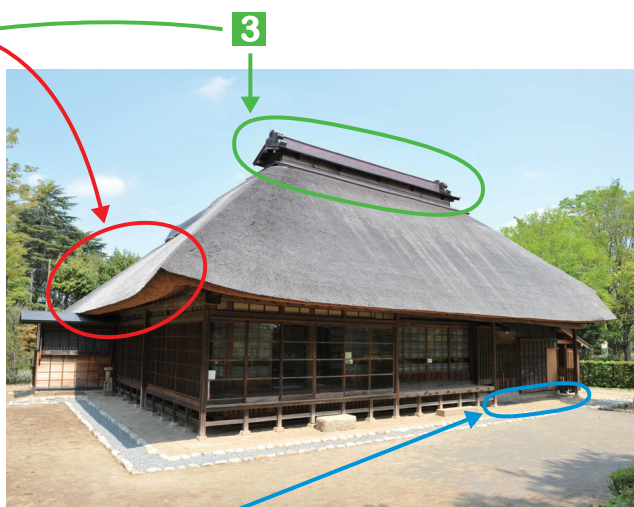
5 土台^{どだい}

柱が地面にどんな風に立っているか、見てみましょう。並べた石の上に柱^{どだい}(土台と呼びます)を寝かせてその上に柱がたっている場合と、石の上に直接柱をたてている場合^{いしばだ}(石場建てと呼びます)があります。石場建ては比較的古い工法です。

古民家建築の見どころ 外から眺めてみる



4 江東区旧大石家住宅



5 練馬区旧内田家住宅